

VI 都市のイメージ

Kevin Andrew Lynch (1918-1984)
ケヴィン・リンチ

The Image of the City (1960, MIT Press)
丹下健三・富田玲子訳 (1968年、岩波書店)

1. 環境のイメージ

1) Legibility (わかりやすさ)

- ・アメリカの市民の都市に対する「イメージ」を調べ、アメリカの都市の視覚的な特質について考える
- ・特に都市の眺めの外見の明瞭さ、わかりやすさに焦点を絞る
- ・前提：人は都市の各部分を認識し、それらをひとつの筋の通ったパターンに構成し把握する

〈わかりやすい都市とは〉

- ・地域／目印／道路などが見分けられ、全体的なパターンへとまとめられる
- ・「わかりやすさ」が都市環境にとって特に重要であることを主張し分析する
- ・都市を改善するのにどのように応用されるのかを示す

↑

明瞭さ・わかりやすさは美しい都市のためのひとつだけの重要な特性ではないが、空間、時間、複雑さの点で、都市環境を考える場合には特に重要となることを理解するために、都市をそこに住む人によって感じとられるものとして考える

「イメージ」とは

- ・個々の人が外部環境に対して抱いている総合的な心像
- ・現在の知覚と過去の経験から生まれる
- ・情報を解釈して行動を導くために用いられる
- ・人の行動を滑らかにし、速やかなものとする

2) Building the Image (イメージづくりの過程)

環境のイメージは観察者と環境との間の相互作用の産物

- ・(外部) 環境は「区別と関係」を提示する
- ・観察者は見るものを選択し、組み立て、意味づけを行う
- ・現実の対象物にはそれほど秩序だったものや目立つものはない

↓

イメージが実体として組み立てられるのは、長い間慣れ親しんでいるからある都市の住民の大多数が共通に抱いている心像 (パブリック・イメージ) がある

3) (外部) 環境のイメージは3つの成分で分析される

a) Identity (そのものであること)

対象物を他のものと見分けている、独立した実体として認めている、個性・単一性

b) Structure (関係性)

対象と観察者、他のものとの間の空間の関係、パターンの関係

c) Meaning (意味)

实际的に または 感情的に 観察者にとって何らかの意味を持つ必要がある

3つは常に同時に現れる

d) Imageability (イメージアビリティ)

心に描かれるイメージの Identity と Structure の性質に関わる物理的特質を求めたい

- ・Imageability は物体にそなわる特質で、これがあるがために物体があらゆる観察者に強烈なイメージを呼び起こさせる可能性が高くなる
- ・鮮やかな Identity と強力な Structure を備えたものは外部環境のイメージをつくるのに役立つ；色や形や配置など
- ・美しい環境には、意味・表現の豊かさ、感覚的な喜び、リズム、刺激、選択 などの基本特性もある

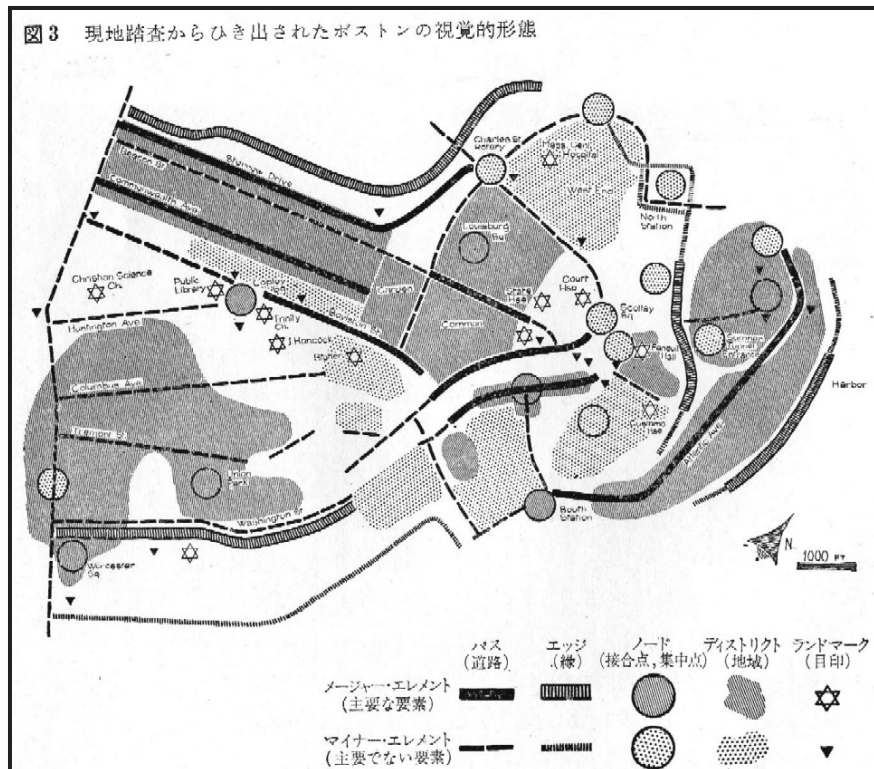
研究目的：知覚の世界における Identity と Structure の必要性を考慮し、この特質が複雑で常に変化しつつある都市環境と特殊な関連を持つことを説明する

2. 3つの都市(対象の選出)

- Boston: 形態が鮮やかでありながら、同時に位置づけが難しい点がたくさんあるユニークな存在
- Jersey City: 外見は形が明瞭でなく、一見したところではイメージアビリティが極端に低く思える
- Los Angeles: 中心部が格子状で他と全く異なる尺度を持つ

範囲は2.5マイル×1.5マイル(4km×2.4km)程度の中心市街地を対象とする

- 調査Ⅰ 訓練を受けた1人の観察者による歩きながらの地域の組織的な現地踏査
 - 種々のエレメントの存在、見易さ、イメージの強弱、関連・断絶・その他の相互関係に注目し、外観にもとづく主観的な評価を行う
 - 地図に示す。イメージの関係性がうまくできている点、困難をもたらしている点を記述する



- 調査Ⅱ 住民の中からサンプル(標本)を選出し、物理的環境に対するイメージを呼び起こすための長時間の面接の実施
 - 説明、位置づけ、見取り図(略図、イメージマップ)、架空の旅を依頼
 - 地域に長く住むか働いている人(住居や勤務先は対象範囲に広く分布)
 - 対象者: Bostonは30名、Jersey CityとLos Angelesは各15名
 - Bostonでは写真の識別テスト、現地を実際に歩き、街頭で通行人に道案内を求めるなどの補助調査も行った

• 調査の結果

サンプル数が少ないので、真のパブリック・イメージが得られたとはいえないが、得られた資料は一貫性が見られた。グループ・イメージは確かに存在し、このような調査により抽出できることが裏付けられた。現地踏査(調査Ⅰ)は面接から引き出したグループ・イメージ(調査Ⅱ)を正確に予言しており、物理的形態がイメージ形成に寄与していることも裏付けられた。

鮮明なものについての描写が一致するとともに、住み慣れていながらもわかりにくいものの描写も一致した。

3都市の Imageability は明白な違いが見られ、ある種の特徴(空地、植物、道路の運動感、視覚的なコントラストなど)が特殊な重要性を持つことも明らかとなった。

●Common Themes (共通のテーマ)

- ・3つの都市の比較によって、人は自分の外部環境に順応し、手近な材料をもとに Identity と Structure を得ていることがわかった。
- ・調査で明らかになったこと
 - 広がりのある眺めの重要性
 - 自然の要素 (植物や水面など) がよく語られる
 - 社会経済的な (地域の) 階級の存在
 - 景観が時間の経過を象徴している

3. 都市のイメージとそのエレメント

都市のイメージは、物理的な形態に帰せられ、5つのエレメントのタイプに分類できる

- 1) パス path (道路)
観察者が日ごろあるいは時々通る、もしくは通る可能性のある道筋のこと
- 2) エッジ edge (縁)
観察者が path としては用いない、あるいは path とはみなさない、線状のエレメント
- 3) ディストリクト district (地域)
「中」から「大」の大きさを持つ都市の部分、2次元の広がりを持つ
- 4) ノード node (接合点, 集中点)
「点」、都市内部にある主要な地点、そこへ向かったり、そこから出発したりする強い焦点
- 5) ランドマーク landmark (目印)
「点」を示す、観察者はその中に入らず、外部から見る

4. 都市の形態 — 例えば Designing the Paths (パスをデザインする)

都市環内の物体の Imageability を高める

↓
部分を見分けて、組み立てを容易にする

↓
Identity と Structure を得やすくする

↓
5つのエレメントは安定している。変化のある都市を築く「積み木」としてとらえられる

↓
Imageable な都市を明らかにするため、5つのエレメントがどのような性格を持っているかの「分析」が重要となる

●Form Qualities (形態の特質)

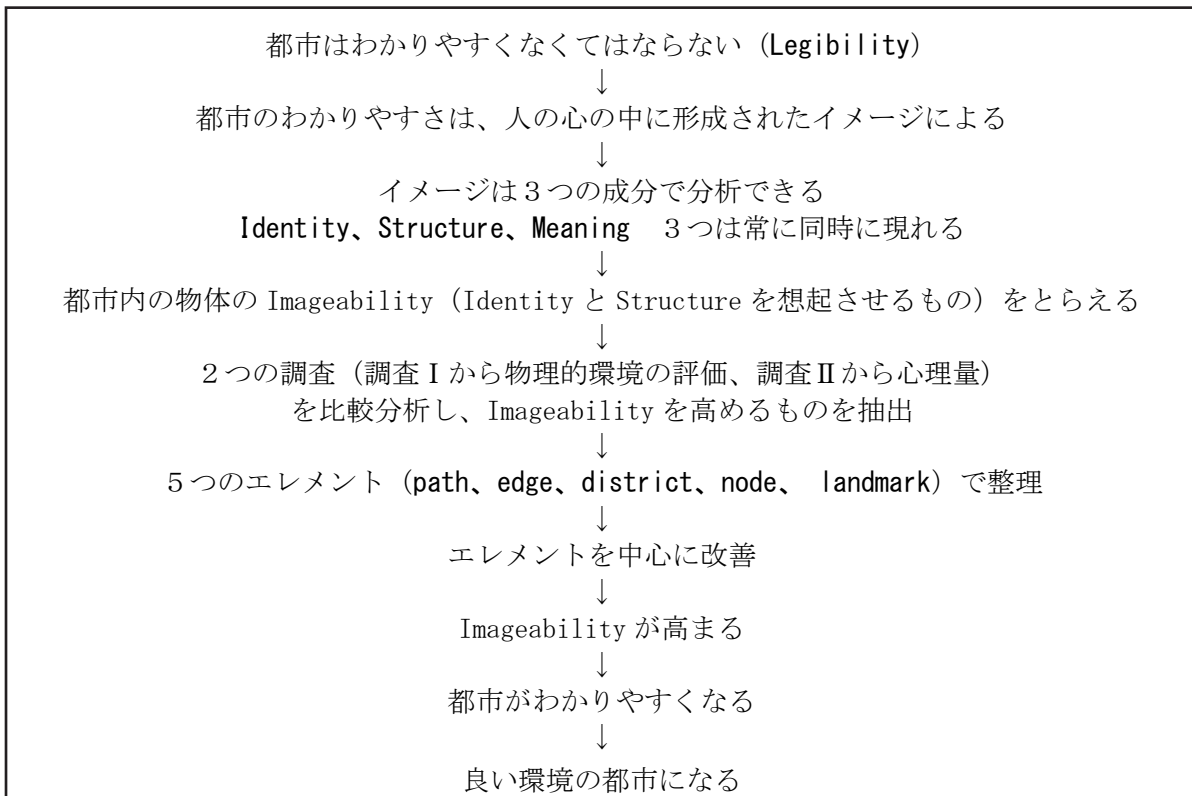
都市デザインに際して次のようなテーマでも整理できる

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| 1) Singularity (特異性)・形態と背景との関係 | 6) Directional Differentiation (方向性) |
| 2) Form Simplicity (形態の単純さ) | 7) Visual Scope (視界) |
| 3) Continuity (連続性) | 8) Motion Awareness (動きの意識) |
| 4) Dominance (優越性) | 9) Time Series (時間的な連続) |
| 5) Clarity of Joint (接合の明晰さ) | 10) Names and Meanings (名称と意味) |

5. 新しいスケール

- ・“イメージ”とは観察者と観察されるものとの間の往復過程の結果であり、その過程の中では、デザイナーが操作できる物理的形態が大きな役割を果たしている
- ・都市の“イメージ”を構成する5つのエレメントが分類され、エレメントの特質や相互関係が検討できた
- ・都市全体をカバーする鮮明で総括的な“イメージ”は、都市の将来を考えるうえで基本的な条件である
- ・“イメージ”は都市における体験や現状をいきいきと理解するうえで必要な次元に引き上げている

6. 「都市のイメージ」のユニークな点



要素	イメージ図
道路	
地区	
端 (際)	
ランドマーク	
結節点	